

## 「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」に関する政府間海洋学委員会（IOC）関係省庁の取組

府省庁名	担当局課	国連海洋科学の10年に関する施策・事業	内容	実施時期	国連海洋科学の10年で 目指す社会的成果	備考
外務省	国際協力局 地球環境課	東南アジア等における海洋プラスチックごみ対策促進支援	東南アジアやインドにおけるプラスチックごみの排出源・経路の特定やモニタリング手法のモデル構築等の科学的知見の蓄積、及び廃棄物管理・処理技術支援のための支援を実施中。	2020年～	きれいな海	
文部科学省	国際統括官付	ユネスコスクール全国大会	全国のユネスコスクールをはじめとする学校を対象に、海洋教育に関する優良事例を募集し、来年のユネスコスクール全国大会において表彰。	2021年	心揺さぶる魅力的な海	
文部科学省	国際統括官付	「国連海洋科学の10年」の周知・関連イベントの登録の呼びかけ	・国連海洋科学の10年について日本ユネスコ国内委員会のHP等で周知。 ・対象期間中に開催される国内の様々な海洋関連のイベントに対し、国連海洋科学の10年関連イベントへの登録を呼びかけ。登録されたイベントにおいては、ロゴマーク・エンブレム等を使用した広報活動を展開。	2020年～	心揺さぶる魅力的な海	
文部科学省	国際統括官付	ユネスコ加盟70周年展示	日本のユネスコ加盟70周年を記念し、文部科学省で実施する展示において海洋科学の10年を含む海洋科学関連事業について紹介。	2021年	心揺さぶる魅力的な海	
文部科学省	研究開発局 海洋地球課	第17回地球環境シリーズ講演会「未来へ、豊かな生態系の海を届けるために～持続可能な開発のための海洋科学の10年～」	国連海洋科学の10年（2021～2030）の7つの柱をベースに、人間を含む生態系を取り巻く環境の課題と、その克服に向けて何ができるのかという視点で機構内外の講演者より話題提供し、持続可能な海を残していくために参加者と議論し考える機会とする。	2020年 10月頃	持続的に収穫できる生産的な海	他の6つの社会的成果にも関係

「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」に関する政府間海洋学委員会（IOC）関係省庁の取組

府省庁名	担当局課	国連海洋科学の10年に関する施策・事業	内容	実施時期	国連海洋科学の10年で 目指す社会的成果	備考
水産庁	研究指導課	漁業の構造改革のための総合対策	資源管理に取り組む漁業者による新しい操業・生産体制への転換等を促進するため、高性能漁船の導入等による収益性向上の実証の取組を支援。	2020年～	持続的に収穫できる生産的な海	
水産庁	国際課	国際的な資源管理の推進	地域漁業管理機関、二国間交渉等を通じ、国際的な資源管理を推進。また、国際機関等を通じ、途上国の小規模漁業者等に対し技術的助言等を実施。	2020年～	持続的に収穫できる生産的な海	
水産庁	管理調整課	新たな資源管理システムの構築	漁獲可能量による管理を基本とする新たな資源管理システムを構築。準備が整ったものからTAC対象種の拡大及び個別割当（IQ）の導入を順次実施するなどにより、最大持続生産量を実現するための目標値の維持・回復を図られるよう資源管理を実施。	2020年～	持続的に収穫できる生産的な海	
水産庁	計画課	水産業、漁村の多面的機能の維持・増進	水産業、漁村の多面的機能（自然環境保全等）の発揮を図るため、水産資源を育成する藻場・干潟の管理・保全を推進。	2020年～	持続的に収穫できる生産的な海	
水産庁	漁場資源課	海洋資源の持続的利用推進	水産資源の持続的な利用を目的とした海洋保護区の適切な設定と管理を推進。	2020年～	持続的に収穫できる生産的な海	
水産庁	研究指導課	水産資源の持続的利用の推進	我が国周辺資源の状況の調査結果等に基づいて、漁業資源の適切な管理のための研究開発等の実施。	2020年～	持続的に収穫できる生産的な海	

「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」に関する政府間海洋学委員会（IOC）関係省庁の取組

府省庁名	担当局課	国連海洋科学の10年に関する施策・事業	内容	実施時期	国連海洋科学の10年で 目指す社会的成果	備考
水産庁	研究指導課	I U U 漁業撲滅に向けた取組を推進	・我が国周辺海域及び隣接する公海における外国漁船及びIUU漁業の操業実態把握。 ・途上国でのIUU漁業や海洋環境の情報を収集する技術の教授等の取組への支援を実施。	2020年～	持続的に収穫できる生産的な海	【関連する成果】 きれいな海 安全な海 万人が利用できる海
水産庁	漁場資源課	漁業分野における海洋プラスチック問題対策	漁業・養殖業に由来する海洋プラスチックごみの削減方策の検討・普及及び生分解性プラスチック製漁具の開発に対する支援、リサイクルしやすい漁具の検討及びマイクロプラスチックが魚介類に及ぼす影響についての調査を実施。	2020年～	きれいな海	
水産庁	企画課	日本発の水産エコラベルの普及推進	水産資源の持続的な利用や環境配慮への取組を証明する水産エコラベル認証を国内外に普及する取組を推進。	2020年～	持続的に収穫できる生産的な海	
気象庁	地震火山部	太平洋津波警戒・減災システムのための政府間調整グループ（ICG/PTWS）第29回会合等	我が国を含む、東日本大震災以降10年の取組みを共有し、ICG/PTWS加盟国の津波防災の発展に繋げる。	2021年	安全な海	
海上保安庁	海洋情報部	基盤情報を整備するための海洋調査の着実な実施	基盤となる海洋情報を整備するため海洋調査を着実に実施する。	2021年～	安全な海	
海上保安庁	海洋情報部	海洋状況表示システム（海しる）の効果的な運用・機能強化	各利活用分野のユーザーニーズを踏まえた情報の集約・共有及び広域性・リアルタイム性の高い情報の可視化などの機能強化を引き続き実施	2020年～	万人が利用できる海	

「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」に関する政府間海洋学委員会（IOC）関係省庁の取組

府省庁名	担当局課	国連海洋科学の10年に関する施策・事業	内容	実施時期	国連海洋科学の10年で 目指す社会的成果	備考
海上保安庁	海洋情報部	日本海洋データセンターの運用	国際海洋データ・情報交換システム（IODE）における我が国の代表機関として、各国の関係機関との海洋データ・情報交換を実施	2020年～	万人が利用できる海	
環境省	水・大気環境局 水環境課海洋プラスチック汚染対策室	The G20 Workshop on harmonized monitoring and data compilation of marine plastic litter	・海洋プラスチックごみについてG20、大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの共有国・地域等が参加するWEBワークショップを開催。 ・モニタリング手法の調和やデータ収集について、その重要性や共有の推進に関する講演とパネルディスカッションを行う。	2020年9月7日	きれいな海	
環境省	水・大気環境局 水環境課海洋プラスチック汚染対策室	海洋プラスチックごみマッピングデータベースの検討・構築	世界各地で行われているモニタリングのデータを収集・一元化し、世界的データ集約拠点を整備。	2020年～	きれいな海	
環境省	水・大気環境局 水環境課海洋プラスチック汚染対策室	海洋プラスチックごみ研究戦略検討会の開催	・海洋プラスチックごみの生物・生態系影響と実態に関する既存の研究を収集・整理し、我が国で推進すべき今後の重点研究課題を特定。 ・生物影響に関する毒性評価手法の検討及び海洋ごみの実態把握を推進。	2019年～	きれいな海	